



第1章 佐渡島の自然の成り立ち

さどがしま どうぶつ

佐渡島の動物たち



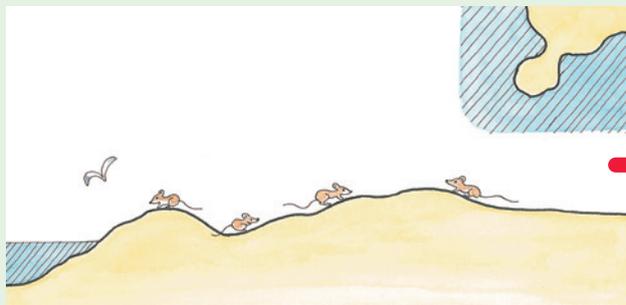
植物と同じく、佐渡島に生息する動物たちの分布には、興味深い特ちょうがたくさんあります。佐渡島の動物たちの姿をみてみましょう。



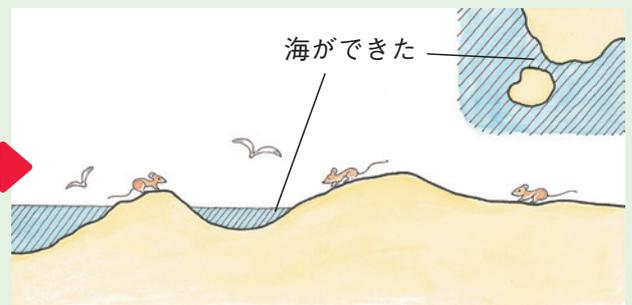
佐渡島の動物たちの姿

佐渡島は、かつては本州と陸続きだったといわれています（→12ページ）。島には成り立ちのしかたが一般的に2種類あり、ひとつを陸橋島、もうひとつを大洋島といいます。陸橋島は、昔は大陸と日本の本州のような、ほかの陸地とつながっていたものが、陸地が沈んだり、海水面が上がるなどの理由で、離れて島になったものをいいます。佐渡島は昔、本州とつながっていたとされていますから、陸橋島にあたります。もうひとつの大洋島は、もともと島であり、ほかの陸地とつながったことのない島のことで、日本の鳥島や、ガラパゴス諸島がこれにあたります。島の地形の成り立ちは、生きものの生活に大きな影響があり、島の生きものの特ちょうをつくりあげる要素のひとつといわれています。

陸橋島と生きものの生活



陸地とつながっているため、動物は自由に行き来できていたが…



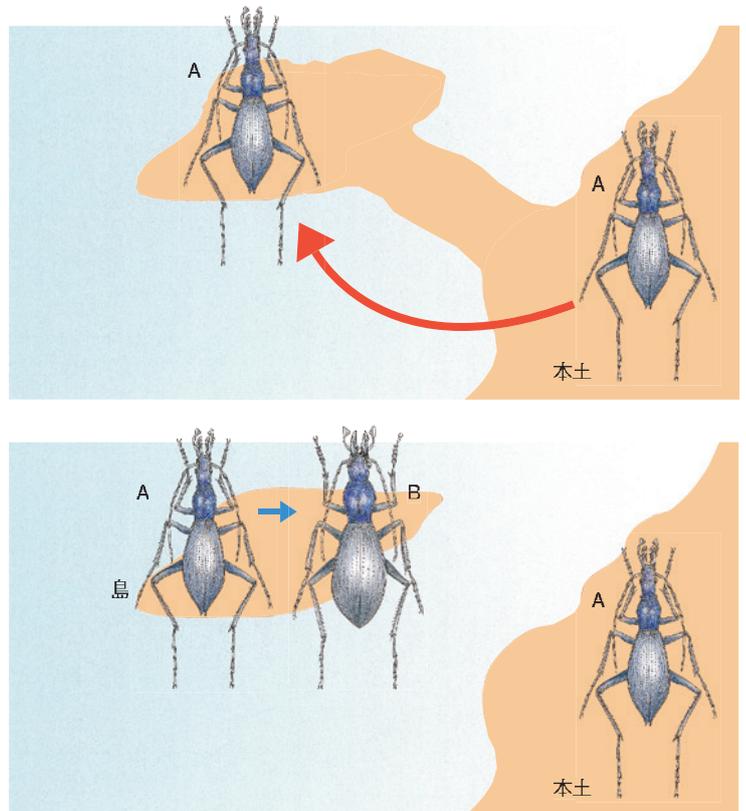
海水面が上がるなどで海ができ、もともと陸続きだった場所が島になった。海を泳げない動物は、行き来できなくなる。

地理的隔離

佐渡島のように、島という独立した陸地になってからの時間が長い状態を、地理的隔離といいます。

たとえば、コアオマイマイカブリ (A) という虫が、陸続きだった時代に本土や佐渡地方にも住んでいたとします。その後、海ができて佐渡島が島として独立し、本土と行き来ができなくなったあと、コアオマイマイカブリが佐渡島の環境にあった体に進化して、サドマイマイカブリ (B) という虫になります。

このように、地理的隔離の状態にある佐渡島には、その環境にあった体を手に入れた、特有の生きものが多く、これが大きな特ちょうになっているのです。



「サド」の名前がつく動物たち



① サドモグラ（はく製：佐渡博物館蔵）

日本の固有種であり、佐渡島の固有種でもあるモグラ。最近までは、本州の越後平野にいるエチゴモグラと同じ種とされていましたが、研究が進み、佐渡島に固有の種類であることがわかりました。



① サドカケス（はく製：佐渡博物館蔵）

佐渡島の固有亜種で、おもに山の中で暮らす美しい貴重な鳥です。環境の変化で、数が減っているといわれており、新潟県のレッドデータブックでは「地域個体群」に指定されていて、絶滅が心配されている鳥のひとつです。

固有種、固有亜種って何？

佐渡島固有種とは、佐渡島にだけ生息していることがわかっている種類の生きものをいいます。固有亜種は、種として独立させるほどの特ちょうがなく、固有種よりひとつ下の分類のものをいいます。固有種も固有亜種も、佐渡島という限られた地域だけに生息する貴重な生きものですから、大切にしなければいけませんね。



① サドノウサギの子ども（新潟大学）

佐渡島で独自に進化したウサギ。一時は増え過ぎて、林業に被害が出たので、テンなどの天敵を放しました。今では反対に数が減り、新潟県の絶滅危惧種になってしまいました。



① 左：サドマイマイカブリ（佐渡島固有亜種）

右：サドコブヤハズカミキリ（佐渡島固有亜種）

佐渡島には、歩行性昆虫（飛ぶことができないか、ほとんど飛ばずに歩き回る昆虫）が多くいます。代表的なものはサドマイマイカブリで、本州のコアマイマイカブリより頭の部分が大きくなっているのが特ちょうです。

佐渡島は渡り鳥の中継基地

佐渡島は渡り鳥の多い島です。とくに冬を佐渡島で過ごす冬鳥の種類が多く、マガン、マガモ、コガモ、ヒドリガモなどの大きな水鳥や、ツグミ、アトリ、ジョウビタキなど、身近に見られる鳥も多くいます。

また、佐渡島を含めて、日本海に浮かぶ島は、渡り鳥の通り道になっています。冬鳥は長い期間ずっととどまって過ごしますが、渡り鳥のうち、ちょっと休けいしたり、栄養補給のために短い期間立ち寄るだけの鳥を「旅鳥」といいます。大きな鳥は双眼鏡がなくても見分けることができるので、楽しみです。渡り鳥の中には、渡りのコースからはずれて迷子になってしまう鳥もいます。右の写真は、迷子になって佐渡島の国中平野にしばらくとどまっていた、マナヅル（左）とナベヅル（右）です。2羽はちがう種類ですが、仲よく過ごしていました。このまま佐渡島に定住するのかわかれていたが、2007年の春、2羽で連れ立って飛んでいきました。



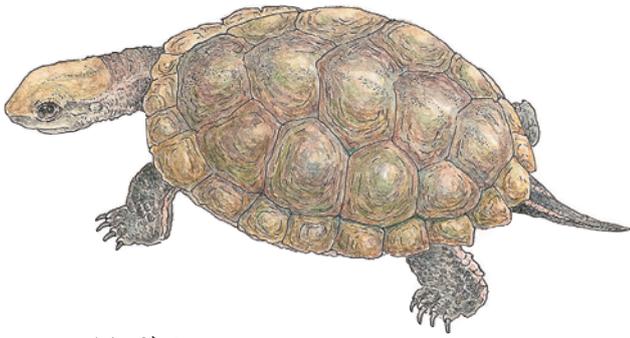
トキが最後まで生息できた島

佐渡島のシンボルであるトキは、野生の生きものの中で、もっとも絶滅が心配されている鳥のひとつで、「国際保護鳥」、「特別天然記念物」に指定されています。日本生まれのトキはすでに絶滅してしまいましたが、そのトキが最後まで生き残ることができた佐渡島の環境は、素晴らしいものであったはずで。

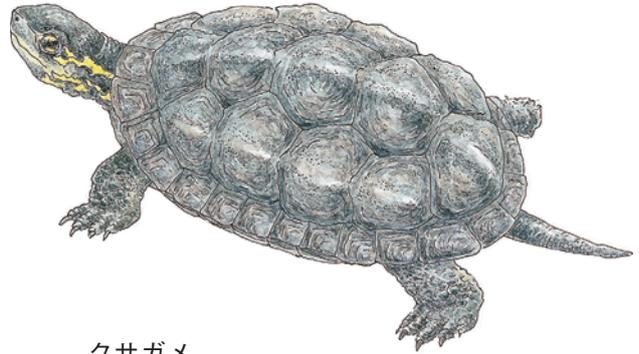
佐渡島ではトキを野生にかえす取り組みが進められています。佐渡島にとどまって過ごす鳥（留鳥）や、夏に日本で過ごす渡り鳥（夏鳥）のおよそ90%の種では、佐渡島で子どもを育てていたことが確認されていて、現在も多く子育てがなされています。これは、鳥にとって生活しやすい環境がまもられていることのあらわれなのです。



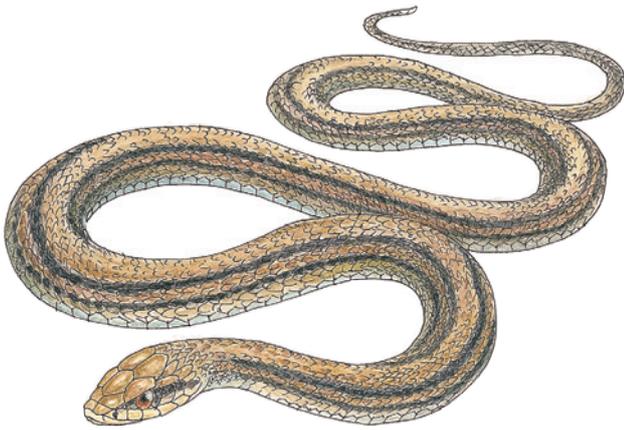
➔ トキについては、「Ⅱ 環境問題を探求しよう！」でくわしく学習します。



イシガメ



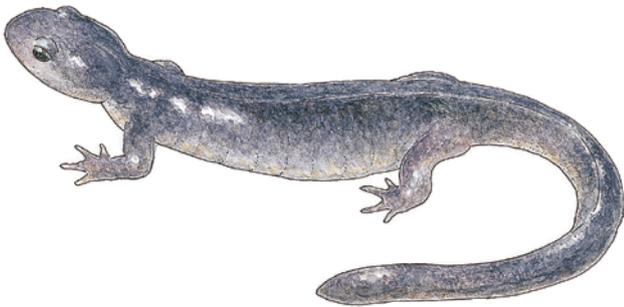
クサガメ



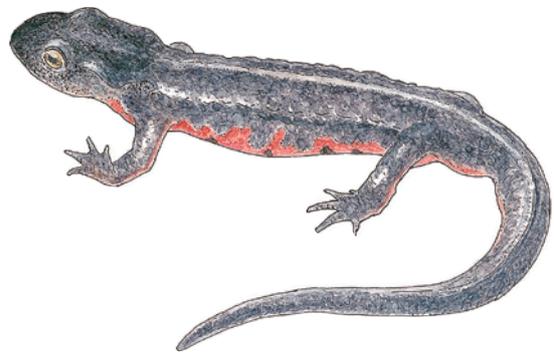
シマヘビ



ヤマカガシ



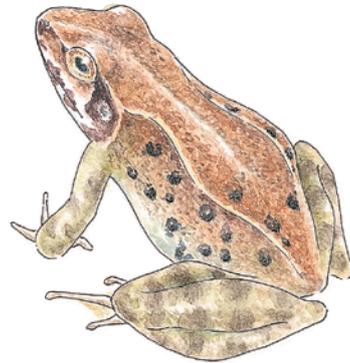
クロサンショウウオ



アカハライモリ



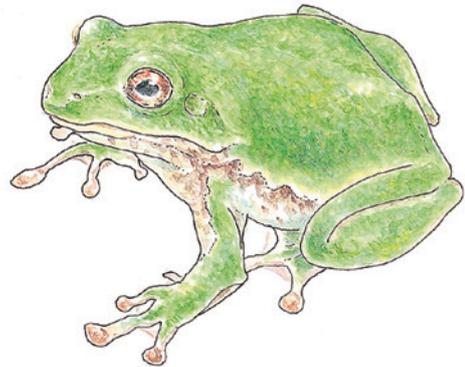
ニホンアマガエル



ヤマアカガエル



ツチガエル



モリアオガエル

まだ名前がついていない新種のカエル

佐渡島で最近になって、ほかの地域ではみられない、新種のカエルが発見されました。ため池などの水辺にすんでいて、一見ツチガエルに似ていますが、皮ふがツチガエルよりなめらかで、おなかの下から後ろ足の付け根までと、前足の付け根のところが、黄色やだいたい色をしています。また、鳴き声がツチガエルとは明らかにちがいます。

この新種のカエルが生息しているのは、地球上で佐渡島だけであり、文字通り佐渡島に固有のカエルです。カエルが生きていくために必要な水辺は佐渡島から減っていて、このままでは絶滅のおそれがあります。わたしたち人間が知恵をしばって、この新しいカエルを大切にしていかななくてはなりません。

